邢台市でも歓迎、内丘県で緑化協力記念植樹

長野県日中友好協会
事務局長　布施正幸

高速道路を２時間走り、石家庄市の南隣の邢台市に到着しました。IC 出口で龍興洲・市外事弁公室主任や裴雅鋒・外弁副主任が出迎えてくれました。邢台市は７２０万人の人口を抱える大きな市で、３５００年の歴史を有しており、「充実した産業、観光、文化都市」です。元代の著名な天文学者郭守敬の生誕の地でもあります。２０１２年から市内の内丘県で日中緑化協力プロジェクトが実施されています。一昨年から千曲市や岡谷市との交流が始まっています。

最初に、市の中心部にある禅宗のお寺、開元寺を参観しました。再建されてほどない感じのお寺でしたが堂々たる威容を誇っており、１３００年以上の歴史を持っているそうです。住職が案内してくれました。本堂の千手観音に旅の平安を祈ってお参りしました。

邢台市表敬と歓迎宴会がホテルで開かれました。邱文双副市長は来訪を歓迎し、緑化協力に感謝し、長野県日中友好協会成立６０周年に祝賀の意を表した後、市の概況を紹介しました。更に「協会が中日友好促進のために大変多くの貢献をされた。今後とも経済貿易、科学技術、農業、教育、文化等の分野で協力を深めていきたい」と述べました。山根敏郎・緑化団長が、熱烈な歓迎に感謝し、内丘県での緑化協力プロジェクトを成功させ、長野県と邢台市の交流を盛んにしていきたいとあいさつしました。その後和やかな歓迎宴となりました。

４月９日は、内丘県に向かいました。現地には緑化計画を示す看板が立てられており、太行山脈に連なる丘陵地帯で赤土の乾操荒地を６年計画で緑化しようというものです。本年は４期目に入っています。１００株ほどのコノテガシワを龍興洲・市外事弁公室主任や盧振江・副県長さんらと共に記念植樹しました。山根敏郎緑化団長はじめ 25 名の団員も一生懸命に土をかけ、水をくれ、しっかりと根元を踏み固めて、順調に根付き成長することを願いました。

大きな看板の前で汗をぬぐいながら全員で記念撮影をしました。

隣接地には槐の樹が、整然と植えつけられていました。２０ha の緑化も必ず成功するだろうと期待し、農民の皆さんと握手を交わしながら、お別れしました。

　会場を県中心地のホテルに移して盧振江・副県長が歓迎の昼食会を開いてくれました。山根緑化団長も熱烈歓迎に感謝し、緑化プロジェクトの成功と内丘県が大きく発展して行くことを祈りますとあいさつしました。